
永久に...

早川 美花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

永久に…

【Nコード】

N4156C

【作者名】

早川 美花

【あらすじ】

同棲していた彼がいきなり私の目の前から消えるその時私は…

貴方はこの部屋から出て行った。

たった1行のメモを残して。

『待っていて』

でも彼とすごしたこの部屋には、彼のものは一切なくなっていた。

普通に考えれば私は同棲していた彼氏に捨てられたのだろう。

でも私は信じたかった。

彼のたった1行のメモを。

『待っていて』

何を待てというの？

それすらもわからない。

私は何を待てばいいというの？？

3年がたった。

私はまだあの部屋に住んでいる。

彼のメモを信じて。

この部屋で彼を待っている。

もしかしたら帰ってくるかもしれないという淡い期待を抱いて。

彼のことを1日たりとも忘れたことはない。

そう言ってしまうえば嘘になる。

私にだって仕事がある。

私にだって友達がいる。

私にだって親がいる。

四六時中彼のことを待っているわけにはいかない。

でも恋愛はしていない。

彼のメモのおかげで新しい彼氏をみつけることができない。

見えない水の糸に縛られている気分だ。

5年がたった。

決めていたことだった。

5年がたつたらこの部屋を出よう。

彼を待つのをやめよう。

新しい一歩を踏み出そう。

引越しの準備はほとんど済んだ。

あとは引越し屋にまかせてある。

私はバックひとつで部屋を出るだけだ。

「ねえ、私、5年も一人で待ってたんだよ？」

「何を待てばいいのかもわからないまま5年も待ってたんだよ？」

鍵は不動産屋に返してある。

私は鍵をかけずに、バックひとつを持って部屋を出た。

エレベーターで1階まで降りる。

これでもう待たない。

彼を忘れられないけど、もう待てない。

エレベーターが1階につき、ドアが開いた。

そこには懐かしい彼の顔があった。

きつとその時の私は今までしたことのないような顔をしたらろう。

「ただいま、待っていてくれてありがとう」

5年前と変わらない優しい声で彼が言った。

涙が流れた。

バックを持つてゐる私に彼は言った。

「出かけるの？」

「ええ、貴方を待つことをやめたの。」

きょんとした彼の顔を忘れない。

だつていきなり音信不通。

5年も帰つてこなかった。

何をしてたのか聞きたいけど、聞く元気もなくなった。

私は彼に背を向けて、ヒールをカツカツ鳴らして歩き始めた。

「さようなら」

涙を流してることをばれないように、私はそうつぶやいた。

（後書き）

シートで書いてみました

投稿は初めてなのでこれからもどろどろよろしくおねがいします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4156c/>

永久に...

2010年12月7日14時35分発行